

平成 28 年 3 月 9 日
中部地方整備局
飯田国道事務所

平成 27 年度重点「道の駅」に選定された 「道の駅」のパネル展を開催します

～地方創生の核となる「道の駅」の取組を紹介します～

1. 概要

「道の駅」は、平成5年の制度創設以来、現在では全国で1079箇所に広がり、地元の名物や観光資源を活かして、多くの人々を迎え、地域の雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上にも貢献しています。

国土交通省では、地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できる「道の駅」を『重点「道の駅」』として選定したところです。

今後、『重点「道の駅」』の取組を広く周知するとともに、取組の実現に向けて、関係機関が連携し、重点支援することとしています。

今般、中部地方整備局管内において、重点「道の駅」に選定された『地方創生の核となる「道の駅」』6駅について、各々の取組等を広く皆様にご紹介するパネル展を開催します。

パネル展は、平成28年3月10日から重点「道の駅」に選定された各「道の駅」等において展開します。

2. 開催場所

道の駅「信州新野千石平」及び飯田国道事務所において開催。
別紙参照。

3. 配布資料

別紙：『重点「道の駅」』パネル展

参考資料：平成27年度重点「道の駅」の選定について
(平成28年1月27日記者発表資料)

4. 配布先

飯田市役所記者クラブ

5. 問い合わせ先

中部地方整備局 飯田国道事務所 副所長 の だ 野田 しげき 茂樹

TEL 0265-53-7206 FAX 0265-53-7212

■ パネル展示(開催場所及び開催期間)

別紙

長野県南信地区

「道の駅」名	展示期間	施設名	場所
信州新野千石平	3/10(木)~3/25(金)	「道の駅」 信州新野千石平	長野県下伊那郡阿南町 2700

※飯田国道事務所でもパネル展を開催します。

※その他、岐阜県(2ヵ所)、愛知県(1ヵ所)、三重県(2ヵ所)において同時に開催します。

平成28年1月27日

道 路 局

平成27年度 重点「道の駅」の選定について

～地方創生の核となる「道の駅」の優れた取組を応援します。～

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、平成26年度より関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた取組を選定し、重点的に応援する取組を実施しています。

平成27年度は、地方創生に資する地産地消の促進及び小さな拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置又はリニューアル等に関する企画提案を募集し、この度、有識者のご意見を踏まえ、重点「道の駅」として38箇所選定しましたので、お知らせします。

[問い合わせ先]

国土交通省 道路局

企画課 企画専門官 井坪 慎二

【代表】：03-5253-8111 (内線 37552)

【直通】：03-5253-8485 FAX：03-5253-1618

国道・防災課 課長補佐 竹内 勇喜

【代表】：03-5253-8111 (内線 37842)

【直通】：03-5253-8492 FAX：03-5253-1620

平成27年度 重点「道の駅」の概要

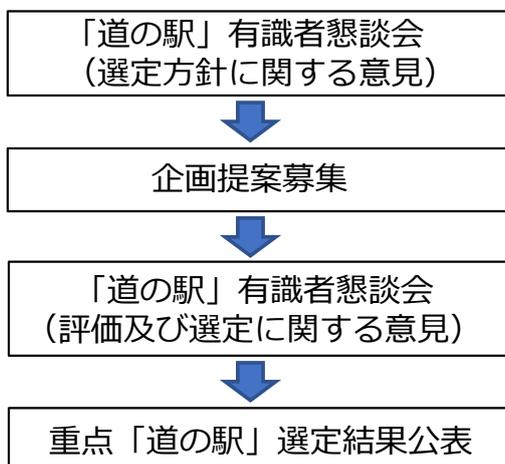
<主な取組内容>

①産業振興 地域の特産品を活かした産業振興「道の駅」
②地域福祉 地域の高齢化等に対応した住民サービス（地域福祉）を提供する「道の駅」
③交通結節点 公共交通の結節点として地域住民に交通サービスを提供する「道の駅」
④防災 災害時に高度な防災機能を発揮する「道の駅」
⑤観光総合窓口 地域の観光総合窓口となる「道の駅」
⑥インバウンド観光 インバウンド観光を促進する「道の駅」
⑦地方移住等促進 地方移住・ふるさと納税推進に貢献する「道の駅」
⑧交流・連携 地域間の交流・連携を促進する「道の駅」
※上記取組を実践する方法として 「道の駅」相互のネットワーク化により効果を発揮する「道の駅」

<支援内容>

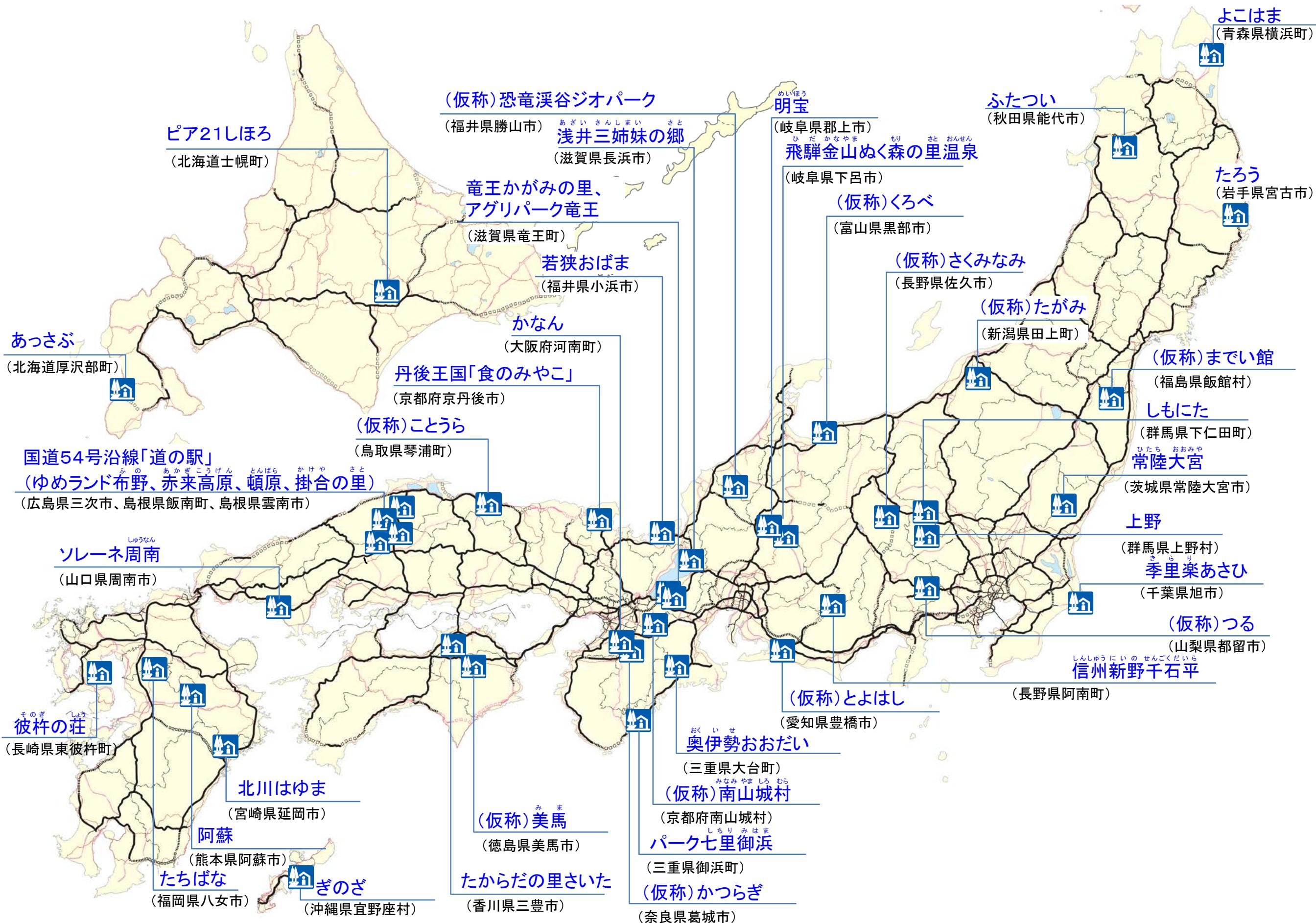
- 自治体・関係機関による協議会等を設け、複数の関係機関の制度の活用等について、ワンストップで相談できる体制を作ります。
- 道路区域内の駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設等は、直轄道路事業及び社会資本総合交付金等を活用して国土交通省が支援します。
- 重点「道の駅」の取組を広く周知します。

<選定の流れ>



「道の駅」有識者懇談会	
委員長：石田 東生	〔筑波大学 システム情報系社会工学域 教授〕
楓 千里	〔(株) JTBパブリッシング 取締役 ノジュール事業担当〕
篠原 靖	〔跡見学園女子大学 観光コミュニケーション学部 准教授〕
根岸 裕孝	〔宮崎大学 教育文化学部 准教授〕
山田 知子	〔比治山大学 現代文化学部 教授〕
(敬称略・五十音順)	

重点「道の駅」選定 38箇所



重点「道の駅」 全 38 箇所

主な取組内容	都道府県	市町村	駅名	主な特長
産業振興	岩手県	宮古市	たろう	水産物の直売や6次産業化による漁業復興・再生の拠点。
	茨城県	常陸大宮市	ひたちおおみや 常陸大宮	全国でも生産量の少ない洋野菜の地産地消及びブランド化の推進。
	山梨県	都留市	(仮称)つる	地域伝統野菜の加工品開発による6次産業化。
	千葉県	旭市	きらり 季楽里あさひ	基幹病院等と連携し「医食農同源」をテーマに、豊富な地元農水産物を活用した地産地消の推進。
	長野県	佐久市	(仮称)さくみなみ	健康長寿をテーマに、健康長寿野菜や健康長寿食の提供による地産地消の推進。
	富山県	黒部市	(仮称)くろべ	豊かな農産物と希少な海産物を活用した6次産業化の拠点。
	三重県	みはまちよう 御浜町	パーク七里御浜 しちりみはま	柑橘加工商品の開発と6次産業化の推進。
	滋賀県	長浜市	あざいさんしまい さと 浅井三姉妹の郷	起業や商品開発をサポートする「チャレンジショップ」の設置による地産地消型産業の振興。
	京都府	南山城村	(仮称)みなみやましるむら 南山城村	「村で暮らし続けるための仕掛け作り」として、特産品である南山城茶を活用した商品開発。
	大阪府	かなんちよう 河南町	かなん	なにわの伝統野菜を使った商品を開発・提供するための施設整備。
	鳥取県	琴浦町	(仮称)ことうら	隣接する既存の道の駅との機能分担及び連携し、地元特産品を活用した6次産業化など地産地消の推進。
	徳島県	みまし 美馬市	(仮称)みま 美馬	地元農林水産物の集出荷システムを活用した産地直売所の設置や地域野菜を活用した6次産業化推進。
	沖縄	ぎのざそん 宜野座村	ぎのざ	宜野座エコ農産物や人材資源等を活用し「食育・地産地消活動」の促進。
地域福祉	青森県	横浜町	よこはま	周辺施設を活用した、地方創生拠点を形成する自動車専用道路IC直結の道の駅。
	福島県	いいたてむら 飯舘村	(仮称)までい館	原発災害からの帰村時の日常生活を支える、役場や医療機関等と連携した復興拠点。
	群馬県	下仁田町	しもにた	買い物困難者への宅配サービス提供、子育てサポート、公共交通バスの結節点化などによる「小さな拠点」の形成。
	新潟県	田上町	(仮称)たがみ	道の駅周辺に公共サービスと生活サービス機能を集約。道の駅と集落地域等を結ぶ公共交通・宅配サービスの導入。
	長野県	あなんちよう 阿南町	しんしゅうにいのせんごくだいら 信州新野千石平	高齢者への宅配サービスを通じた買物支援や安否確認、町民バスと連携した中山間地の生活支援。
	岐阜県	ぐじょうし 郡上市	めいほう 明宝	NPOと連携した日用品の配達及び生活支援サービスによる高齢者支援。
	岐阜県	げろし 下呂市	ひだかなやま 飛騨金山 もり さと おんせん ぬく森の里温泉	病院・老人福祉施設等の地域福祉機能等の集約、コミュニティバスや高齢者宅配サービス等による小さな拠点機能の向上。
	奈良県	葛城市	(仮称)かつらぎ	高齢者の交通手段確保のためのコミュニティバス運行、ICTを活用した買い物支援。
	山口県	しゅうなんし 周南市	ソレーネ周南 しゅうなん	高齢者の相談窓口の設置、バス停の整備による、地域住民のサポート体制の構築。
	福岡県	やめし 八女市	たちばな	地域福祉の向上と地域住民の安全安心な地域コミュニティ再生による行政サテライト機能の充実
	長崎県	ひがしそのぎちよう 東彼杵町	そのぎ しよう 彼杵の荘	障害者支援施設が行う移動販売車による買物支援と農産物の集荷・販売システムの確立。

主な 取組 内容	都道 府県	市町村	駅名	主な特長
交通結節点	北海道	しほろちよう 士幌町	ピア21しほろ	長距離バス、路線バス、地域コミュニティバスの結節点として機能。
	福井県	小浜市	若狭おばま	交通結節点機能強化(バスターミナル機能拡張、パーク&ライド)による観光促進。
	三重県	おおだいちよう 大台町	おくいせ 奥伊勢おおだい	JR、高速バス、路線バスの結節点における行政、文化、、観光、医療サービス拠点の形成。
	宮崎県	延岡市	北川はゆま	コミュニティバスの乗入れや高速バスストップの設置、パーク&ライド機能を備えた乗継拠点。
防災	愛知県	とよはしし 豊橋市	(仮称)とよはし	南海トラフ地震等に備えた防災活動拠点。
観光 総合 窓口	福井県	勝山市	(仮称)恐竜渓谷 ジオパーク	県立恐竜博物館等を活かした観光・交流拠点。コミュニティバスによる周遊観光。
	京都府	京丹後市	丹後王国 食のみやこ	丹後地域の観光資源、地域食材等を紹介する観光等総合窓口。
観光 ウィン ドパ	秋田県	能代市	ふたついで	世界遺産「白神山地」の玄関口として、多言語化に対応したインバウンド観光案内所(スタッフ・ガイド)を配置。
地方移住等促進	北海道	あつさぶちよう 厚沢部町	あつさぶ	日本版 GCRC との連携により高齢者移住や、新規就農による移住・定住促進に向けた情報発信や総合案内。
	群馬県	上野村	上野	移住窓口を設置するなど道の駅を中心に移住・雇用対策を展開。
	香川県	みとよし 三豊市	たからだの里 さいた	道の駅の観光ポテンシャルを活かした移住促進(移住コンシェルジュによる相談窓口設置、移住体験ツアー開催等)。
	熊本県	阿蘇市	阿蘇	消防署、医療センター等と連携した「小さな拠点」の形成。空き家バンク制度を活用し、移住定住等を促進。
交流・ 連携	滋賀県	竜王町	竜王かがみの里・ アグリパーク竜王	土産土法の取組を2駅(集客力のある駅と農業生産力のある駅)連携で推進。
	広島県 島根県	みよしし 三次市 うんなんし、いいなんちよう 雲南市、飯南町	国道54号沿線 「道の駅」	自動車道の開通により交通量が減少した国道54号沿線の4つの道の駅の相互連携による、地域の暮らしを持続的支える環境構築。